

本事例に関する概況・基礎データ等は、中村-6ページの「中村区 豊臣学区」を参照

## 【活動の概要】

平成24年8月、豊臣小学校の運動場及び体育館を会場にし、学区として初めての取り組みとなる「防災体験～学校に泊まろう～」を開催した。豊臣小学校の児童や保護者など、120人余りが集まり、親子が主役となった宿泊型の防災体験事業を実施した。

プログラムは、防災食の炊き出し体験、地震体験車の乗車、煙避難体験といった防災体験に加え、夜の学校探検（肝試し）など、親子で楽しめる内容とした。また、宿泊するにあたっては、体育館に段ボールとタオルケットで寝床を作って休むことで、災害時における避難生活の一端を体験することができた。

本事業は、父親のPTA会員による「おやじの会」が中心となり、豊臣小学校や区政協力委員会をはじめ学区の様々な団体が協力して企画・運営された。



体育館での一泊体験

### ■活動への取り組み方

- ・“自分の身は自分で守る”という意識を持つことが重要と考え、「おやじの会」を中心に、小学校やPTA、学区連絡協議会メンバー等が事業の企画立案の段階から連携して取り組んだ。特に会場となる小学校とは密に連絡を取り合い、準備を進めた。
- ・災害時には避難所となる小学校を舞台に、親子で参加できる体験型の防災教育を重視するとともに、体験を通じて親子の絆を深めることを目指した。
- ・備蓄食品の提供など企業からの協賛も得て実施した。

## 1

### きっかけ・目的…子どもや若い世代の意識啓発が大切

高齢者が中心に参加しているこれまでの学区防災訓練を見直し、大震災から子どもの命を守るために、また、地域を守るために子どもやその保護者が参加・体験して親子の絆を深める事業を行うことで、区政協力委員会や各種団体、学校等が連携して地域全体の防災意識の啓発を図ることができるのではないかと考えた。

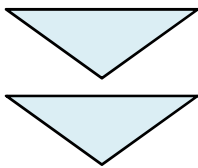
### 【ステップ①】関係団体との企画検討及び運営準備組織の立ち上げ

#### ■「おやじの会」が主体となり企画立案、運営組織の立ち上げ

- ・発案者である「おやじの会」が、他地域の事例も研究しながら企画案を練り上げるとともに、準備組織「学校に泊まろう実行委員会」を発足した。

#### ■小学校やPTA、区政協力委員など各種団体と協議

- ・小学校をはじめ、地域の各種団体と意見交換を行い、意見の違いを整理しながら、事業実施の方針や企画の骨子をみんなで組み立てていった。



地震体験車

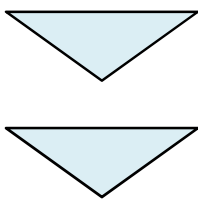
### 【ステップ②】参加者の意向を踏まえた事業内容の検討、参加者の募集

#### ■実施内容の詳細について関係機関と協議・調整

- ・夜間の学校利用については、教育委員会や区役所、消防署等と繰り返し協議して許可を得るとともに、起震車の手配などを依頼した。

#### ■事前調査で意向把握後、小学校を通じて参加募集

- ・児童・保護者に事前アンケートを実施し、参加や宿泊の希望を把握。
- ・事業規模や内容を検討し、小学校を通じて参加を呼びかけ。



#### 親子で楽しみながら体験

- ・体育館での宿泊、防災食の炊き出し体験、地震体験車への乗車、消火器体験、バケツリレー、夜の学校探検(肝試し)、消防団ポンプ車放水見学、煙道体験など親子で一緒に楽しく体験。



炊き出し体験

### 【ステップ③】実施体制の構築及び事業実施、振り返り

#### ■各種団体との連携及びボランティアによる運営体制の構築

- ・学区内の各種団体に加えて、PTAの会員交流部、中村区災害ボランティアなどの協力を得て、事前準備から運営までの実施体制を構築した。

#### ■事業の実施及びアンケート調査等による振り返り

- ・夕方 16:30 から翌日 11:00 まで、1泊2日で実施。
- ・終了後に子どもと保護者にアンケート調査を実施して評価を把握した。

### ■学校やPTA、学区連絡協議会メンバー等と密接に連携

- ・最初はおやじの会の行事として実施しようと考えていたが、学区連絡協議会と相談したところ、「防災意識の高い地域としたい」という趣旨が受け入れられ、学区の行事として実施することになり、各種団体の協力を得て準備を進めていくことができた。
- ・特に、小学校とは密に連絡を取り合い、企画から当日の運営まで二人三脚の体制で進めていった。

### ■小学校を舞台に、体験を伴った子どもへの防災教育を重視

- ・子どものうちから避難所等での実体験を通じた防災教育を行うことが地域の防災意識を高めるために重要であり、また子どもを介して家族や地域の防災力を高めることになると考えて、小学校を舞台にした防災体験事業を実施した。

### ■防災体験を通じて親子の絆を強めることを目指す

- ・親子で一緒に体験し、その体験を話し合うことで親子の絆を築くことも重要と考え、災害に関するクイズなど親子で参加できるよう内容を工夫した。

### ■備蓄食品の提供など企業からの協賛も得て実施

- ・複数の食品メーカーに協力を呼びかけて、レトルトカレーや乾パンなどを提供してもらうなど、企業との連携も行った。

### ■延べ120名が参加して無事に開催できた

- ・2日間で児童とその保護者延べ120人が参加し、約40人の児童が宿泊を体験するなど、親子の防災意識の向上を図ることができた。
- ・各種団体の協力により、子どもたちには、ケガや病気もなく無事終えることができた。
- ・事後のアンケート調査でも高い評価を得た。



放水体験の様子

### ■学区の結びつきが深まった

- ・各種団体とともに様々な課題や意見の相違を乗り越えて、事業を実施することができ、これまで以上に学区の結びつきが強まった。

### ■学校と地域の相互理解が深まり、信頼関係が構築された

- ・従来から、交通安全の見守りなど、学校と地域の交流が図られていたが、今回の事業で夜間の学校利用に関する様々な課題などを協議するプロセスを通じて、学校と地域の相互理解がさらに深めることができた。

## 5

### 今後の課題・展望・・・事業の継続・拡充及び他の防災訓練との連携

#### ■地域活動への若手の参加・協力

- ・おやじの会が中心となって事業を進めることで、子どもを持つ若い世代をターゲットにした防災体験事業を実施することができた。
- ・防災以外の活動にも、これまで以上におやじの会やPTAが協力し、地域の活動への若い世代の参加を促していきたい。

#### ■防災に強い安心安全な学区に向けた事業の継続・拡充

- ・小学生と保護者を対象とした防災体験事業の実施により、子どもたちが防災意識をさらに強く持つことになった。今回の事業の成果と課題を明らかにして、今後の学区防災訓練の実施に反映させることで、防災意識の高い学区にしていきたい。

#### ■他地域の取り組みへの協力

- ・今回の避難所での宿泊体験を実施するにあたって、既に同様の活動を実施している「おやじの会」と連絡を取り合い、情報収集しながら準備を行った。他の地域が避難所の宿泊体験を実施するときには、声をかけていただければ、できる限り自分たちも協力していきたい。

## 6

### 運営者の声

- ・「自分の身は自分で守る」という意識を地域全体で持つために、地域ぐるみで子どもへの防災教育を行い、災害に強い家庭、地域をつくっていきたい。
- ・これまでおやじの会と各種団体が協力関係を築いてきたことで、地域に若い世代を受け入れてくれるといった土壌があり、地域の協力を得て防災体験事業を実施することができた。…など



炊飯袋で米を炊く体験

## 7

### まとめ・考察

- ・学校や区政協力委員会をはじめとする学区内の様々な団体が、子育て世代の「おやじの会」の提案を受け入れて、新たな事業を企画立案の段階から参加・協力して作り上げたことで、各種団体の結び付きがより一層強くなっている。
- ・子どもを対象として防災体験事業を実施したことで、保護者も訓練に参加し、これまで訓練への参加が少なかった若い世代を防災訓練に呼び込むことができた。